

【建設通信新聞 令和6年8月21日】

群馬県と群測協

女性技術者が魅力語る 建設系女子学生と意見交換



群馬県と群馬県測量設計業協会(田村義一会長)は20日、前橋市の前橋工業高校で建設系学科の女子高校生と女性技術者の意見交換会を開いた。写真。前橋工高、高崎工高、桐生工高、勢多農林高の各校から約20人の生徒が参加した。

田村会長は冒頭、「建設業は男性の仕事のイメージが強いが、昨年は4000人以上の女性が技術者として就職

し、10年前から2倍以上になっている。男女区別なく働く環境を整えており、ハイテク技術で環境が格段に改善している。今後一緒に仕事ができるとうれしい」と呼び掛けた。

その後、女性技術者が体験談を発表した。沼田土建の吉田美由紀さんは「レーザースキャナーやドローンなど最新技術を使うことで、女性でも体力差を感じずに仕事ができるようになってきている。やる気次第でいくらでも女性の活躍の場がある」と業界の魅力を紹介した。河川砂防の設計を担当する富永調査事務所の下

山実名美さんは「土木は性別に関係なく取り組める、やりがいのある仕事だ」と強調。用地測量を担う高崎測量の中林瑞樹さんは、自社の社員の3割が女性だと紹介し、「作

業した現場で自分の名前が残る。達成感を得られる仕事だ」と話した。

群馬県太田土木事務所の新井祐美さんは「女性だからといって職場環境に不都合を感じたことはない」と働く環境が整っていることを指摘。群馬県建設企画課の小河原志織さんは「職員だけでなく、県民、建設業界、測量業界など多くの人のつながりを持つてる仕事だ」と仕事を通じて得た実感を語った。

女性技術者と高校生との意見交換では、学生たちから「働きながら資格を取ることができるのか」「男性社員が多い中で、特別視されることはあるのか」などの質問が寄せられた。

意見交換後には、ドローンや3Dスキャナーなどの最新技術も体験した。